

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありません。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

## 沼津高架P I プロジェクト 原地区第1回勉強会

### グループ討議の概要【Aグループ】

勉強会の進め方については、この勉強会は賛成・反対という意見を言い合う場ではなく、原のまちづくりや将来像について話し合う場だという認識を共有しました。そのため、もっと若者や子育て世代、女性の参加が必要だという意見が多く出されました。各自治会に推薦してもらったり、小中学校PTAや農業の人などにも積極的に声をかけて入ってもらう、コミュニティ推進委員会の広報に内容を掲載して関心を高めてもらう、などの具体的な提案が出されました。

また、次回の議題が事前に分かっていたら周囲の人の意見を聞く事もできるので、事前に知らせて欲しいという要望が出されました。

地域づくりの目標については、まず原地区は、豊かな自然と歴史的な環境があり、農業があり、なにより富士山を背景とする景観のすばらしさが自慢できると、口々に声が上がりました。

そしてこの地域は、このすばらしい資源を活かした活性化を考えていくべきである、東駿河湾環状道路、新東名のスマートインターチェンジ、原駅前等の整備が大きなチャンスであるという認識でみなさん一致しました。

『暮らし』については、「地域づくりの目標」の中の「静かな暮らし」という表現は、活性化は必要ないとも読み取れるので、「静か」は不要だということになりました。

『交流』や『産業・雇用』といった活性化の内容については、主に観光、医療、交流による農業振興が挙げられました。たとえば、「集客するためには人を呼ぶ目玉が必要だが、原は環境、風景、歴史などが目玉である。活性化のためにまずはそれらの保全と魅力アップに取り組みたい」「原駅を起点とする散策路をつくり、寺町の観光と商業を結びつけてはどうか」「ファルマバレー構想もあるので、健康文化タウン建設や医療施設の誘致を進めたい。体だけでなく心も癒す療養施設なども考えられる」「農業体験、市民農園、農村交流のしくみをつくることで、農業を継続させていきたい。」「国道1号沿いに「道の駅」をつくり、特産品販売や観光の起爆剤にしたい。」「磯釣りに来る人も多いので、原駅の南口からアクセスしやすくできるとよい。」「たくさんの人を集めるために、グラウンドなどスポーツ施設をつくってはどうか。」など、具体的なアイデアが提案されました。また、「山側には工場などを誘致できる土地がある」という意見もありました。

『交通』については、活性化のためには道路整備の必要性があるとして、駅からの南北道路が繋がっていない、東西を結ぶ国道1号の渋滞等が課題としてあげられ、散策路の整備の提案も出されました。

『防災』については、「原の最大の弱点は水害のリスクなので、沼川新放水路の整備を早くして欲しい」という共通した意見が出されました。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありません。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 原地区第1回勉強会

グループ討議の概要【Bグループ】

勉強会の進め方については皆さんから「いろいろな考えの人がいるが、まずは私たちの郷土である原をよくするにはどうしたらよいか、どのような原にしたいかを話し合おう」という積極的なご意見を頂きました。「原の地域づくりを話し合うのに、貨物駅の説明はいらなかったのではないかな。結論ありきではないのかな」「今日出された意見は、どのように扱われるのかな」「連合自治会への働きかけや、女性の参加など、もっと幅広い参加が必要ではないかな」「関係団体である沼津市がこの会場に来ていないのは問題ではないかな」というご指摘がありました。なお、最初の県の説明で、「市民団体の活動経緯も記載されたことは評価、感謝するが、内容が間違っているので訂正してほしい」との指摘があり、県からお詫びと訂正がありました。

地域づくりの目標については、概ね皆さんのご意見として、以下のようなご意見が出されました。

『暮らし』については、「のんびり暮らしていると、無秩序な開発が進んでしまうようで、積極的にまちに関わるような暮らしがあってもよいのではないかな」「地域資源である自然環境や景観を保全するためにも、『人が暮らすエリア』『生きものや景観を保全するエリア』『産業など開発をするエリア』など、住み分けを考え、原駅周辺は歩いて暮らせるような、原版コンパクトシティを考えてはどうか」「スマートインターの開通とそれに伴う道路整備の話が進む中、ランドデザインがないまま沿道開発などが進んでしまわないように計画づくりが必要」との意見がありました。

『交通』については、「車の運転をしない・できない世代の移動手段を確保（バスなど）するとともに、日々の生活は歩いて済むようなまちを目指すことで、暮らしやすさに繋がるのではないかな」との意見がありました。『産業・雇用』については、「スマートインターの開通と併せた、計画的な新設道路の沿道整備や、原の資源である「農」文化や、「寺町」文化への誘いが、産業・雇用に繋がるのではないかな」との意見がありました。また、「超高齢化に向かっている現状を踏まえ、定住と雇用をセットで考え、若い人が住んで働けるようなまちを考えることが必要」「県の施策にそって、新たな産業（福祉・健康など）を考えてはどうか」といった提案があった一方、「企業の撤退がある中、地元を呼ぶのは難しいのではないかな」との懸念も示されました。

『防災』については、「旧東海道の北側の広い範囲で、冠水被害がある。この問題の解決が暮らしやすいまちに繋がるが、放水路整備には時間もかかるので、その間の対策も必要」との意見を頂きました。